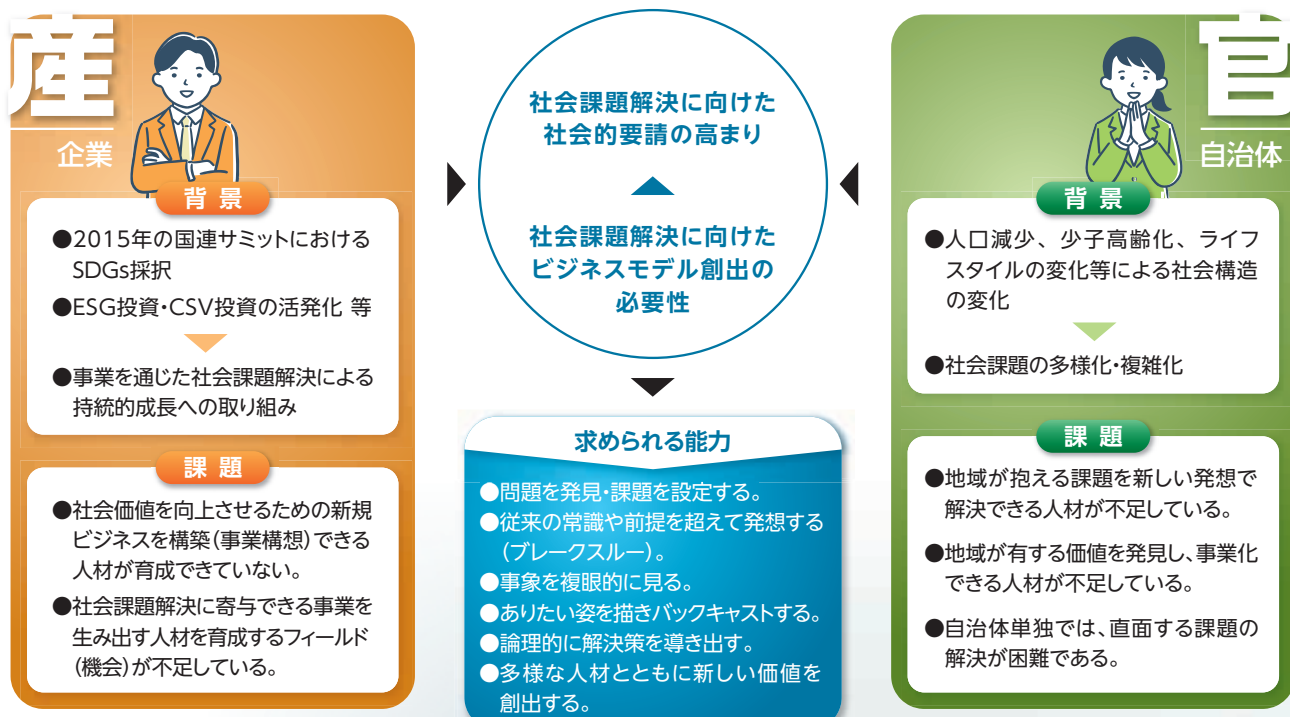


筑波大学スポーツウエルネス学学位プログラム  
スマートウェルネスシティ政策開発研究センター  
エクステンションプログラム

## スマートウェルネスシティ アカデミー



# 「スマートウェルネスシティ アカデミー」



**ニーズ** 企業・自治体の協働によって新しい社会課題にアプローチし、その解決までの道のりを自ら描く人材の育成

スマートウェルネスシティ アカデミー開講の背景

注) ESG: Environment (環境)、Social (社会)、Governance (ガバナンス) CSV: Creating Shared Value (共通価値の創造)

## スマートウェルネスシティ アカデミー開講の背景と目的

人生 100 年時代を迎えて、我が国においても個人のみなならず、組織、地域（まち）、そして国全体としてライフコースの見直しを検討する必要に迫られています。また、2015 年の国連サミットでは、SDGs を含む「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を採択し、誰も置き去りにしないための新たな行動計画が示されました。これにあわせるように企業では ESG や CSV への投資が活発化し、事業を通じた社会課題解決による持続的成長への取り組みが重視されています。一方、自治体では、少子高齢化人口減による社会構造の変化で、社会課題の多様化・複雑化が大きな問題となっています。企業と自治体、いずれの立場からも社会課題解決に向けたビジネスモデルの創出が求められており、これを可能とする人材育成は急務です。

しかしながら、我が国の企業の多くは、社会価値を向上させるための新規ビジネスを構築・構想できる人材が育成できていないのが現状で、加えて、そのような人材を育成するフィールドや機会も不足しています。一方、自治体では、地域が抱える課題を新しい発想で解決できる人材、及び地域が有する価値を発見し、事業化できる人材が不足しており、もはや自治体単独では直面する課題の解決が困難な状況となっています。したがって、これからは「問題を発見し課題を設定する能力」、「従来の常識や前提を超えて発想する能

力」、「事象を複眼的にとらえられる能力」、「論理的に解決策を導き出す能力」、そして「多様な人材とともに新しい価値を創出する能力」を有する人材が企業側にも自治体側にも求められているといえるでしょう。さらには、企業と自治体の協働によって新しい社会課題にアプローチし、その解決までの道のりを自ら描く人材の育成が必要であると考えられます。

そこで、このエクステンションプログラムでは、本研究センターが産官学連携で集積してきたスマートウェルネスシティ創生に関わるエビデンス、異分野連携のための先進的かつ強固なネットワーク、ならびに社会人大学院で 20 年近く蓄積されてきた実践的教授法を駆使して「新しいウェルネス社会の課題にアプローチし、その解決までの道のりを自ら描くことのできる人材」の育成を目指します。具体的には、「エビデンスベースでビジネスを構築できる人材」及び「バックグラウンドの異なるメンバーの価値観を理解し、互いの考えや強みを引き出しながら、チームとしての成果に結びつけることができる人材」を、ウェルネスやスポーツをはじめとする多彩な分野で広く活躍する経験豊富な講師陣とともに、インプットセッションとアクティブラーニングから成る先端的なプログラムにより育成します。



## プログラムの構成

本プログラムは、「インプットセッション」と「アクティブラーニング」で構成されます。

### ◆インプットセッション



#### 基礎セミナー

社会課題解決に不可欠な基礎能力を身につけることを目的とします。具体的には「課題の設定力と解決力」、「論理的思考力」、「事業計画の立案力」及び「データの分析力と活用力」といった能力を、筑波大学東京キャンパスビジネスサイエンス系の教授を中心とした講師陣の講義、及び講師と受講者間または受講者間のディスカッションを通じて身につけます。



#### 事例検討セミナー

スマートウェルネスシティ実事例から課題の視点と解決の実際を学ぶことを目的とします。スマートウェルネスシティを目指す上で障壁となる社会課題に対し、解決に向けて挑んだ実事例を、まちづくりやDX等の現場での経験が豊富な講師陣の講話から感知し、複眼的かつ近未来的な視点で事象をとらえ、戦略的に課題解決を導くことの重要性を学びます。



#### インスピレーションセミナー

最先端をゆくパイオニアからブレークスルーの起点を得ることを目的とします。主に従来の常識や前提を超えて発想する能力、あるいは新しい価値を創出する能力に焦点をあて、各分野のパイオニアである講師陣の講義や講師との対話からインスピレーションを得ることで、それらの能力を高めるきっかけとします。

### ◆アクティブラーニング

#### フィールドワーク

実際の自治体における特定課題を共有した上で、その課題解決に向けた仮説設定、リアルフィールドでの実地研修、及び課題解決を導くプロジェクト計画の立案を4～5人のグループ単位で実践します。

#### グループワーク・メンタリング

インプットセッションにおける各講義後には、指定されたテーマに対し、講師を交えたグループディスカッションとグループ間のディスカッションを毎回必ず行います。また、フィールドワークで課される仮説設定や計画立案、ならびにそれらの資料作成をグループワークにより進めていきます。各グループに対してメンターを配置し、定期的なメンタリングも行います。メンターは、筑波大学スマートウェルネスシティ政策開発研究センターの客員教授、及び教員が担当します。

内藤 久夫  
市長より

## 実地研修地「葦崎市」のご紹介

実地研修先に葦崎市をご選定いただき感謝申し上げます。実際に本市が抱える課題を題材に実地研修を行っていただけますことに、厚くお礼申し上げます。

人口減少や少子高齢化の進展、新型コロナウイルス感染症の影響など、経験したことのない転換期を迎えるなか、将来像である『すべての人が輝き 幸せを創造するふるさとにらさき』を目指して、活力あるまちづくりを推進してまいりましたが、昨今は、多様な年齢層の働き方や生活様式に大きな変化が生じたことで、運動やスポーツ、また交流の機会や外出頻度が減少し、子どもの体力の低下やフレイルのリスクが高い高齢者の増加が懸念されています。

こうした状況を打開するため、市営新体育館の建設を含め、様々な健康・スポーツイベントや交流事業を展開するほか、市スポーツコミッションによるスポーツツーリズムの推進を図るなど、子どもから高齢者・障がいをお持ちの方までのすべての人が生涯にわたって健幸で活力ある地域社会の形成を進めているところです。

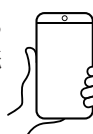
今回のプログラムを通じて、研修にご参加される皆様方の優れた知見と経験を融合させて、持続可能なまちづくりを推進していきたいと存じます。どうぞよろしくお願いたします。



甘利山レンゲツツジの風景

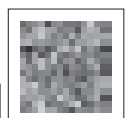


「スポまち!長官表彰2022」表彰式典・室伏長官と



スマホの方はコチラから

にらさき観光ナビ <https://www.nirasaki-kankou.jp/index.html> search



# イノベーションを起こすために

## 課題解決力を高める!!

筑波大学スマートウエルネス  
シティ政策開発研究センター  
を立ち上げた背景について教え  
てください。

この研究センターは筑波大学の東京キャンパス、丸の内線の茗荷谷駅という、国の政策に関わる霞が関や永田町等に非常に近い位置にあります。また、ここにいる教員の多くは、スポーツや健康政策に関わる研究をやっているという特性もあります。

ここをさらに強化したいという想いと、社会人大学院という特殊性から産学連携の中でより実際のな、そして、イノベーションにつながるような政策研究を行いたいという思いで、この研究センターを立ち上げました。

プログラムを開講する背景と  
意義を教えてください。

まず、筑波大学の東京キャンパスは、いわゆる社会人の大学院というのが特徴です。われわれのスポーツウエルネス学学位プログラムは修士、博士の両方を備えています。修士に関してはちょうど20年、そして博士に関しては6年という教育期間が経ちました。われわれは社会人教育、リカレント教育の経験を培ってきました。これまで多くの企業の方や自治体の方などに、われわれの門をたたいていただいで、より高度な職業人として巣立っていただいています。

企業の経営者層や自治体の首長さんたちと意見交換をする中で、もちろんこれからは修士、博士へ人を送り研鑽を積ませたいという思いもありますが、やはり一定の期間がかり、現実的にはハードルが高いというお声を聞いていました。

その中でエクステンションというやり方で時間的な制約のハードルを下げて、その代わりに最先端の知見そして何よりもいま大事なイノベーションを起こすための課題解決力を高めるために、そこに特化した教育や経験、そして、われわれ教員とのヒュー

マンリレーションを作っていく、そういう場が何よりも必要だとどうこうで、このセンターを立ち上げることになりました。

スマートウエルネスシティの  
実現に必要な高度専門人材  
について教えてください。

皆さんお分かりのようにいま我が国は、少子高齢化です。特に高齢化部分では超高齢社会です。ここからさまざまな社会課題が生まれます。あるいはもう生まれて、課題が大きくなっています。例えば、社会保障の持続性という問題もあります。

最近の研究ではきりとしたことは、都市環境そのものが人の健康や幸せに大きく貢献するということです。また、スポーツももちろんですが、やはり人を感動させ、そして仲間を作ることが、つながりを持って健康に寄与していきます。この掛け算です。スポーツ、健康そしてまちづくり、こういう掛け算をしていくのが、スマートウエルネスシティです。「このまちに住むと自然と健康になってしまおう」というまちを全国に広げるといふポリシーでわれわれは進めています。

これを理解してくださる人材を産業界や自治体、行政、それ以外の領域の多くに作ることによって、この社会課題を加速度的に解決していくことに、われわれアカデミア側も貢献をすべきだと強く考えています。

われわれはそれに資するだけのリソースを東京キャンパスに準備できていると自負しておりますので、ぜひ

多くの方にチャレンジをしていただきたいと思っております。

どのような方に参加して  
いただきたいと思いますか？

スポーツ領域、健康領域、まちづくり領域に関わられている企業の方、自治体の方、NPOの方、あるいは、競技団体なども単なる競技力向上だけではなく、いかに地域と関係しながら貢献していくかということを探求されていますので、そういう観点のある面でエリートを養成しようということ、一定の経験を持つておられ、さらに飛躍されたいという人材を求めています。

エリートという言葉を使ったのですが、一流大学を出たり、一流企業に入っていたりすることだけが、エリートではありません。「社会に対して責任を持てる人」をわれわれはエリートと言います。

責任を持てる人というのは、気持ちだけではなく、やはり具体的な課題を解決して、社会をより良くしていく、前進させる、そこに貢献する人材です。そこに熱い志を持つ方々にお集まりいただきたいと思っております。

このインタビューをご覧に  
なっている皆様にメッセージを  
どうぞ。

このエクステンションのプログラムでは、われわれ教員も中に飛び込んで、一緒になって現実の課題を解決

する方策を追求していきます。ぜひ多くの皆さんにチャレンジしていただければと思います。

### 久野 譜也

筑波大学教授(体育系) / スポーツウエルネス学学位プログラムリーダー / スマートウエルネスシティ 政策開発研究センター センター長

1962年生まれ。筑波大学大学院医学研究科博士課程修了。博士(医学)。2011年より現職。2002年に健康増進分野日本初の大学発VB株式会社つくばウエルネスリサーチを設立。代表取締役社長を務める。科学的根拠に基づいた高齢化社会に対する日本の健康政策の構築を目指して2009年全国9市長とSmart Wellness City首長研究会を立ち上げる。同会は2023年6月現在43都道府県120市区町村に拡大。スポーツ庁スポーツ審議会委員・健康スポーツ部会部会長代理を務める。





## プログラム受講により期待されること

- 企業、スポーツ・健康関連団体、自治体、及び省庁から選抜された受講者が、自治体が抱えるリアルな課題に取り組み、ビジネスモデル創出を通じた解決プロセスを体験することにより、企業やスポーツ・健康関連団体等の「産」側は、自治体の意思決定プロセスや抱えている課題を把握し、自社のビジネスを創出する可能性を見出すことが可能となります。一方、自治体や省庁等の「官」側にとっては、企業の意思決定のスピード感や最新の動向を知ること、新しい価値観や組織文化を経験する機会になります。
- 個々の受講者がデータ分析・可視化の重要性に気づき、種々のデータを活用して現状把握、問題発見、課題設定、要因分析、及び戦略策定等をエビデンスベースで推進することに重きを置くことができるようになります。
- 組織文化や価値観の異なる業種、異分野のメンバーまたは講師陣とのディスカッションや共同作業を通じて、自身の思考の枠組みや囚われに気づいたり、高い視座、多様な視点あるいは広い視野が得られたり、企業と自治体の文化の違いを理解した上で互いの利益につなげたりすることができます。

## 筑波大学のエクステンションプログラムとは

筑波大学は、知の全ての分野において幅広い教育研究活動を展開する研究大学型総合大学として、自然と人間、社会と文化に係る幅広い学問分野において、深い専門性を追求すると同時に、既存の学問分野の垣根を越えた協働を必要とする領域の開拓に積極的に取り組み、国際的に卓越した教育や研究を実現することを目指しています。このエクステンションプログラムは、こうした社会貢献の1つの形として、本学の高度で先駆的な研究・教育分野から得られた成果をいち早く社会に還元し、皆様に見える形でお届けすることを目的としています。他に例を見ない学際的な融合により、火花を散らしながら生み出された最先端の学問を、それを基盤とした社会還元を目的としたプログラムを通じて、直接感じていただければ幸いです。



## スマートウェルネスシティ・コミュニティ

本プログラムを通して生まれるコミュニティは、『スマートウェルネスシティ・コミュニティ』によって、常にリアルタイムで最新の知識や情報を共有できるようフォローアップされます。プログラムで得た学びを踏まえ、自身のビジネスや社会実装を推進する中で、さらに未知の課題に直面することは容易に想像されます。そのような時、『スマートウェルネスシティ・コミュニティ』は、新たな産学連携事業の立ち上げやコンソーシアム設立など、本学との持続的な関係強化を促進します。修了後の具体的な活動展開の例として、各種イベントや研究会、講演会の開催、修了生のモデレータ参画などが想定され、このコミュニティを通じ、変革し続ける本プログラムに継続的に関わることができます。



## スマートウェルネスシティ政策に欠かせないSDGsの視点からも有益なプログラムに

本プログラムは、実際に自治体が抱える社会課題を取り上げて、その解決に向けた政策や課題解決策を検討していきます。SDGsはその立案に欠かせない概念です。基礎セミナーでは、地球環境を中心とした社会課題解決に求められるマーケティングや、人と人との関係から社会課題に取り組むAI技術、それを踏まえて、成果を生むための事業計画の立案などを学びます。これらは、SDGsの実現に不可欠な知識でもあります。また、事例検討セミナーでは、住み続けられるまちづくりはもちろん、すべての人に健康と福祉を届ける政策的観点や実事例などを、実際に学びながら、実地研修における自治体の課題に落とし込んでいきます。最後には、これらを踏まえてイノベティブな解決策立案に繋げるためのインスピレーションを得ることができます。受講を通して、スマートウェルネスシティの実現とSDGsの実現が、親和性と繋がりのあるものとして、理解が深まれば幸いです。



## オープニングセミナー「本アカデミーにおける特定課題を共有する」



何がウエルネス社会の本質的課題なのか？

### 久野 譜也

筑波大学体育系教授、スマートウエルネスシティ政策開発研究センター長  
博士(医学)

今、日本人の約7割が健康に無関心です。従来の1次・2次予防は、3割の個人を対象にしてきたわけですが、これからは社会環境全体に向き合い、個人が健康に無関心なまま、気づかないうちに健康になれる環境を整備する、いわば「0次予防」が必

要でしょう。また、社会的孤立を深める要因である他人への無関心、他者との支え合いの忌避も大きな問題です。人は、楽しいこと、自分にとって利益のあること、必然性でしか動きません。国民全体を動かすためには、前向きなメッセージを打ち出すことが欠かせません。本講義では、課題解決力を磨き、社会を良くしていくことに責任を持てる人材＝エリート人材の育成についても考えていきます。



政策形成・実施における官と民、そして学 ―ヘルスプロモーション分野での経験から―

### 中島 誠

全国健康保険協会(協会けんぽ)理事  
筑波大学スマートウエルネスシティ政策開発研究センター客員教授

東京大学法学部卒業後、厚生省入省。厚生労働省生活習慣病対策室長、同省大臣官房参事官(健康・医療保険担当)、同省障害保健福祉部企画課長、内閣府子ども・子育て本部審議官などを歴任。また、九州大学大学院法学研究院助教授(立法

学、社会保障法)、一橋大学大学院法学研究科客員教授なども務める。生活習慣病対策の抜本的見直し・拡充や医療費適正化計画の創設等、制度改革に携わり、医療保険運営体制の構築に関して、都道府県等の関係機関との調整・連携を推進させた。スマートウエルネスシティ政策開発研究センターでは、政策立案、ヘルスプロモーションを中心に、研究教育指導に取り組む。

## 基礎セミナー「社会課題解決に不可欠な基礎能力を身につける」



社会課題解決に求められるマーケティングとは―地球環境問題を中心に―

### 西尾 チヅル

筑波大学副学長、ビジネスサイエンス系教授  
博士(工学)

筑波大学専任講師、同准教授、米国UCLAアンダーソン経営大学院客員研究員、米国ペンシルベニア大学ウォートン経営大学院客員研究員を経て現職。日本学術会議会員(第一部経営学委員会委員長)。日本マーケティング・サイエンス学会や日本広告学会等の理事の他、中央環境審議会(環境省)や産業構造審議会(経済産業省)等の委員を務める。専門はマーケティング、消費者行動、環境コミュニケーション。

地球環境問題、SDGs等、企業や組織が抱える社会課題は多様化、重層化しています。市場を創り、市場との取引を円滑にすることを目的とするマーケティングにおいても、今や、これらの社会課題解決に資するモノづくりやサービスの提供が求められています。しかし、どのような社会課題を対象とするかによってマーケティング・アプローチは異なります。本講義では、地球環境問題を中心として、市場を構成する消費者のエコロジー意識や行動のメカニズムを紹介するとともに、地球環境共生型のマーケティングのあり方と展開上の課題について概説します。



シーズと関連性から政策立案と事業への展開 ―具体的な事例で考える―

### 荒井 広幸

筑波大学スマートウエルネスシティ政策開発研究センター客員教授

早稲田大学社会科学部卒業。福島県議、衆議院議員3期、参議院議員2期、新党改革代表を務めた。在職中に早大客員教授や安倍内閣で内閣官房参事官などを歴任。主な政策と立法には、2003年7月成立「少子化社会対策基本法」(提出者兼議員連盟事務局長)、テレビ放送の地上デジタル化推進(自由民主党初代総務部会長)、麻生太郎内閣採用「家電エコポイント制度」(発案)、2012年2月23日施行「株式会社東日本大震災事業者再生支援機構法」(提出者)、2015年安保法制で閣議決定した自衛隊海外

派遣の「国会事前承認」(発議)などがあり、幅広い分野で多くの政策を進め立法した。NPOから三つ星議員として表彰されている。当センターでは、政策立案と立法過程を分析し社会実装をどうすすめるかを研究している。

課題解決手法は、様々な関係性でみることが有効です。まちづくりは、人づくり・社会づくりであり、様々なコミュニティの再構築・新生が不可欠です。「自分の得たものを街に返すことで、街そのものになっていく。相手が国となるとあまり大きすぎて愛するのはたしかにむずかしい。しかし、自分の住むところなら、まだなんとかなるかもしれない。」これは作家井上ひさしの言葉です。こうしたことを深掘りしてみたいと思います。



人と人との関係から社会課題に取り組むAI技術

### 倉橋 節也

筑波大学ビジネスサイエンス系教授  
博士(システムズ・マネジメント)

計測・制御システム関連の民間企業に勤務しながら、放送大学教養学部産業と技術専攻卒業。筑波大学大学院経営・政策科学研究科企業科学専攻修了した後、筑波大学大学院ビジネス科学研究科准教授、University of Groningen(オランダ)客員研究員、University of Surrey(英国)客員研究員、科学技術振興機構研究開発戦略センター特任フェロー等を経て現職。社会シミュレーション、感染症モデル、経営情報分析、シリアスゲーム、

機械学習、異常診断などの研究に従事。専門は人工知能、システム科学。

イノベーションを創出する組織や分断を生まない組織とはどのようなものか、社会や組織の基盤となる社会規範はどのように成立し、どのような時に崩壊するのか、人口減少に対応したコンパクトシティを推進するにはどのような政策が有効か、感染症に強く、観光と共存できる街はどのようにして作られるかなど、人と人との関係に大きく依拠した社会や都市、組織の課題に取り組むための、社会ネットワーク分析の手法と、AIシミュレーションの基礎を学んでいきます。

## 事例検討セミナー「SWC実事例から課題の視点と解決の実際を学ぶ」



人口減少に立ち向かう基盤戦略としてのウォークブルなまちづくり

### 青木 由行

筑波大学スマートウエルネスシティ政策開発研究センター アドバイザー  
(一財)不動産適正取引推進機構 理事長

1986年東京大学法学部卒業後、建設省(現国土交通省)入省。国土交通省、内閣府、復興庁、宮崎県、鳥取県等でまちづくり、道路行政、地方創生、建設業、不動産・土地政策等を担当。SWCの取組に共鳴し、2010年内閣官房で創生期のSWC等をモデルに総合特区制度を創設し、2019年内閣府都市局長時にウォークブルなまちづくり施策を創設。不動産・建設経済局長、内閣府地方創生推進事務局局長等を経て2022年6月退官し、

7年内閣府本府参与。同年10月より(一財)不動産適正取引推進機構理事長、筑波大学スマートウエルネスシティ政策開発研究センターアドバイザーを務める。

今後の人口減少に立ち向かい、孤独孤立の防止、健康寿命の延伸、イノベーションの喚起、地域経済の持続的成長などの地域課題を解決するには、住民のアクティビティの向上とクリエイティブ人材が重要です。そのために必要な「場の力」をつくり、引き出すのが人間の普遍的特性を踏まえたウォークブルなまちづくりです。本講義では、各地の先行事例を参照しながら、公民連携で進めるウォークブルなまちづくりの本質と目的、いくつかのメソッド、今後の課題などについて解説し、今後、まちづくりを現場で議論するときの着眼点や考え方の枠組みを提供します。



スポーツ環境デザインと地方創生—官民連携によるマネジメント—



### 松田 裕雄

筑波大学国際産学連携本部客員准教授  
(株)Waisportsジャパン代表取締役  
スポーツによる地方創生産学官連携プラットフォームコーディネーター  
筑波大学体育系講師(バレーボールコーチング論)を経て現職。選手や指導者となる人材の発掘・育成から、スポーツマネジメント人材・起業家的人材・大学発ベンチャーの発掘・育成、産学連携事業の開発を手掛ける。筑波大学発のベンチャー企業を4社起業。分野横断型の研究ユニットで開発した「スポーツ環境デザイン」を活かし、北海道日本ハムファイターズとの「北海道茨城県プロジェクト」、岩手バ

レーボールコミッションとの「オガールプロジェクト」、国土交通省との「コンパクトシティ再生モデル事業(下妻市)」等、官学民を巻き込んだ人材・組織・地域開発案件を幅広く手掛ける。  
日本の経済停滞の要因に、多様性より画一性を重んじ、個人の自由な意思・発想にもとづく独創的行動が常に抑制されてしまう「モノ中心の環境設計」があげられる。イノベーションが起きない理由の一つともいえるでしょう。答えは常にひとつのSociety 3.0時代がほぼ終わり、答えは常に複数のSociety 5.0時代に前に、人の独創性を引き出すための「ひと中心」の新しい環境設計が必要です。スポーツは、語源(Des-port)の通り、本来、人の自由な意思や創造性を発揮させるものであり、音楽や芸術同様自分で自分の「内に秘めたる感性や資質」を新たに発見する機会でもあります。改めてスポーツの使い方を直し、新しい環境設計を構想することは、地方創生のヒントとなるに違いありません。

地域再生のための次世代型「まちづくり」の社会実装はどのようにして実現されたか



### 神田 昌幸

大和ハウス工業(株)常務理事、大阪府・大阪市 特別参与  
筑波大学スマートウエルネスシティ政策開発研究センター アドバイザー  
全日本スキー連盟 副会長、日本オリンピック委員会 評議員  
京都大学大学院工学研究科土木工学専攻修了後、建設省入省。国土交通省都市局街路交通施設課長、国土交通大学校副校長、倉敷市助役、富山市副市長、筑波大学大学院客員教授、京都大学大学院非常勤講師、東京工業大学非常勤講師。(株)まちづくりや時代代表取締役社長、富山ライトレール(株)副社長等を歴任。(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会輸送局長等を務めた。景観対策、コンパクトシ

政策、LRT等公共交通機関支援、健康まちづくり等を推進。富山駅前広場・自由通路-LRT軌道を生産して2017年度グッドデザイン賞を受賞。現在、大阪・関西万博の交通・輸送等に関する。  
人口減少期に入ったわが国においては、かつての人口増加期に設計された諸制度が機能しにくく状況が生じています。特に、1968年に制定された都市計画法に基づく都市計画行政は、近年の社会動態や地域経済の変容による土地利用の変化により、その実質的な効果が低減しつつあると考えられます。こうした都市を取り巻く環境の変化に対応するため、2014年には都市再生特別措置法の改正によりコンパクトなまちづくりが法的に位置づけられました。さらに、都市構造を規定する要素として鉄道や道路といった移動や物流を支える交通施設が極めて大切であることから、「コンパクトネットワーク」という考え方に基づき、今後の都市の望ましい在り方を示し、都市構造の改善を進めようとしています。また、都市政策に健康増進の観点も取り入れたウォーカーフレンドリーなまちづくりの進め方に革新をもたらしています。

医療を中核とした「まちづくり」の社会実装は どのようにして実現されたか



### 鈴木 邦彦

医療法人博仁会理事  
医学博士、日本内科学会認定医、日本消化器学会専門医  
秋田大学医学部卒業後、仙台市立病院、東北大学第三内科、国立水戸病院を経て、志村大宮病院長に就任し、現職に至る。日本医療法人協会副会長、中央社会保険医療協議会委員、日本医師会常任理事(医療保険・介護保険・福祉(認知症を含む)、地域医療、薬事、病院・有床診療所を担当)、社会保障審議会介護給付費分科会委員等を歴任。日本地域包括ケア学会事務局長、茨城県医師会会長、日本在宅療養支援病院連絡協議会会長を兼務。

志村フロイデグループは、茨城県北西部にある人口4万人弱の小都市を中心に、地域包括ケアシステムの元になった地域リハビリテーションの理念に沿って、20年以上、事業に取り組んできました。その過程で、当グループの目標が地域の超高齢化対策、少子化対策、人口減少対策など一体となっていることに気付き、簡単に移転できない中小病院は地域と運命共同体であることを自覚し、病院を中心とした高齢者や障害者、子供の皆が安心して過ごせるまちづくりを実践してきました。当グループのまちづくりには、職員有志のプロボノ組織「フロイデDAN」が大きく関わっており、その活動は合併前の旧5町村ごとの「小さな拠点」づくりから、市内92か所の集落ごとの「小さな小さな拠点」づくりへと発展しています。

健康都市の自治体づくりにおける意思決定プロセスと課題解決



### 久住 時男

筑波大学国際産学連携本部顧問  
商社に勤務し、主に海外事業に従事したのち、52歳より新潟県見附市長を5期務め、筑波大学客員教授を経て現職に至る。地方創生有識者懇談会委員(内閣官房)や社会資本整備審議会委員(国土交通省)等、8庁庁18の審議会等の委員を歴任。新潟県市長会長、北信越市長会長、全国市長会副会長も務めた。見附市長としては、就任当初より健康政策をまちづくりの中核に置き、同市を健康都市として醸成させた。第1回コンパクトシティ大賞、SDGs未来都市・モデル事業等にも選定された。退任後、全国市長会特別功労表

彰、ベトナムダナン市感謝状、建設事業関係功労者国土交通大臣表彰などを受けた。スマートウエルネスシティ首長研究会の会長を設立当初より務めた。  
厳しい繊維産業を主とする地方都市の首長に、「愛着と誇り」・「市民参加」を掲げて就任した私は、行政だけで課題は解決できないと判断し、指定管理者制度を積極的に取り入れました。セミナーでは、行政組織と企業・民間組織との連携の難しさを乗り越え、一地方都市が前例のない数々の事業に、如何にして取り組み得たかを具体的に解析したいと考えています。特に、スマートウエルネスシティとして歩んだ道筋を示し、市民アンケートで90.3%が住みやすいと答える都市になりえた理由を、ソーシャルキャピタル醸成の重要性と共に、受講者のみなさんと一緒に考えてみたいと思います。

## インスピレーションセミナー「最先端をゆくパイオニアからブレークスルーの起点を得る」

多様な身体性を構成するための テクノロジーとコミュニティ



### 落合 陽一

筑波大学図書館情報メディア系准教授  
デジタルネイチャー開発研究センター長  
科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 xDiversityプロジェクト研究代表  
博士(学際情報学)  
東京大学学際情報学府博士課程早期修了。日本学術振興会特別研究員、米国マイクロソフトサーチでのリサーチインテラン等を経て、筑波大学図書館情報メディア系助教としてデジタルネイチャー研究室を主宰。ピクシダストテクノロジー株式会社を設立し、CEOを務める。筑波大学学長補佐、内閣府知的財産戦略ビジョン専門調査会委員、文化庁文化交流使などを歴任。大阪芸術

大学客員教授、京都市立芸術大学客員教授、金沢美術工芸大学 客員教授、デジタルハリウッド大学特任教授などを兼務。World Technology Award, Prix Ars Electronica, EU Starts Prize, Laval Virtual Awardなど数多くの賞を受賞。また、令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰、若手科学者賞を受賞。  
落合陽一は、メディアアーティストとして10年以上活動してきました。そのコアにあるのは、波動に対する洞察とデジタルと非デジタルの境界面から観察することで得られる物質や生命への畏敬であります。生涯の探求の中で、計算機を使って波動を制御することを専門とし、研究者として大学に勤め、教員やJST-CRESTの研究プロジェクトリーダーとして、AIを用いたタスク指向型開発による社会実装として、身体障害や認知機能の補完を目指すプロジェクトを行なっています。そういったタスク指向型システムを開発する上での注意点や、実世界指向システム周辺の研究動向、ケーススタディなどをお伝えします。

スポーツで考える日本の未来—多様な人材が必要な理由—



### 山口 香

筑波大学体育系教授  
スマートウエルネスシティ政策開発研究センター副センター長  
博士(生命医科学)  
13歳の時に日本で初めて開催された全日本女子柔道体重別選手権大会(1978年)で優勝し、以後、同大会10連覇。第3回世界女子柔道選手権大会(1984年)では、日本女子初の金メダルを獲得。ソウル五輪(1988年)で銅メダルを獲得し、翌年引退。筑波大学女子柔道部監督、全日本柔道連盟女子強化コーチを歴任。現在は、筑波大学スポーツウエルネス学学位プログラムでスポーツマネジメントを担当。トップアスリー

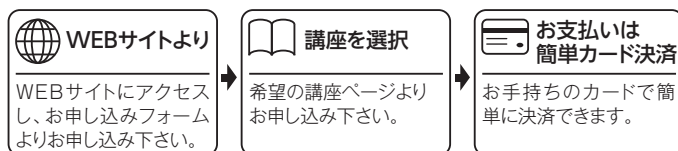
トやトップチームが五輪やW杯などでパフォーマンスを高めるためのマネジメント、スポーツにおけるジェンダー、女性アスリートに特化した強化、アスリートのセカンドキャリアなどを研究している。  
東京2020大会では、招致以来、コロナ以外にもさまざまな問題が浮上りました。組織委員会は、それらの問題を一つひとつ解決しながら、大会を成功へと導きました。起きた問題は、日本が、日本人が向き合ふべき課題であったのかもしれませんが、コンセプトは「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」の3つでしたが、これらをレガシーとして残すことができたでしょうか。柔道の創始者嘉納治五郎は、修行の方法を「形、乱取、講義、問答」としました。最初の二つは実技ですが、講義と問答は座学です。スポーツを通じて見えてくるものは少なくありません。東京2020大会は通り過ぎた風のように感じますが、そのプロセスを通じて得た種はたくさんあります。その種に水や肥料を与えて育てていくことが私たちの役割です。スポーツを切り口として、日本の未来を考えてみましょう。参加される皆さんとパスを回しながら、ゴールに近づいていけるような講義にしたいと思います。

# 「スマートウェルネスシティ アカデミー」募集要項

期 間：2023年9月～2024年2月（90分×24コマ）  
 定 員：20人（最少人数：6人）※弾力的に調整あり  
 受 講 料：1人あたり66万円（税込）※実地研修の宿泊費、移動費は別途受講者負担、1社あたり最大2人までとする  
 開 催 方 法：対面  
 開 催 場 所：筑波大学東京キャンパス ※学外でのフィールドワーク（実地研修）あり  
 受 講 対 象：健康経営を推進する企業、スポーツ・健康関連団体、自治体及び省庁などに所属するウェルネス社会の課題解決を担う次世代プロジェクトリーダー（候補を含む）等  
 備 考：修了者には修了証、ならびにスマートウェルネスシティ・コミュニティのIDを発行する  
 カリキュラム：下表の通りとする。なお、講師ならびに日程については、変更の可能性もある。

日付	時間	インプットセッション	アクティブラーニング
9/30(土)	13:00～17:00 (17:30～交流会)	導入セッション(オリエンテーション、参加者交流会、事前評価)	
		オープニングセミナー「本アカデミーにおける特定課題を共有する」	
		何がウェルネス社会の本質的課題なのか? 担当:久野 譜也(筑波大学体育系教授/SWC政策開発研究センター長)	
		政策形成・実施における官と民、そして学—ヘルスプロモーション分野での経験から— 担当:中島 誠(筑波大学SWC政策開発研究センター客員教授/全国健康保険協会理事)	
10/13(金) ～10/14(土)	(集合時間等の 詳細は別途案内)		フィールドワーク 特定課題の共有・実地研修 1泊2日 in 山梨県韮崎市 ・まちなか見学 ・自治体職員との意見交換
基礎セミナー「社会課題解決に不可欠な基礎能力を身につける」			グループワーク
10/27(金)	18:30～20:00	社会課題解決へ求められるマーケティングとは?—地球環境を中心に— 担当:西尾 チヅル(筑波大学副学長/ビジネスサイエンス系教授)	1グループ4～5人で、特定課題解決のための仮説設定に向けたディスカッション、ならびに中間報告会に向けた資料作成などを行う。
10/28(土)	13:00～17:00	シーズと関連性から政策立案と事業への展開—具体的な事例で考える— 担当:荒井 広幸(筑波大学SWC政策開発研究センター客員教授)	
		人と人との関係から社会課題に取り組むAI技術 担当:倉橋 節也(筑波大学ビジネスサイエンス系教授)	
事例検討セミナー「SWC実事例から課題の視点と解決の実際を学ぶ」			メンタリング
11/2(木)	18:30～20:00	寛容性とまちづくり—「場の力」「ウォークアブル」「寛容性と多様性」— 担当:青木 由行(筑波大学SWC政策開発研究センターアドバイザー/ (一財)不動産適正取引推進機構理事長)	教員、および韮崎市の関係者、キーパーソンによるメンタリングを、適宜実施することができる。
11/9(木)	18:30～20:00	スポーツ環境デザインと地方創生—官民連携によるマネジメント— 担当:松田 裕雄(筑波大学国際産学連携本部客員准教授)	
11/16(木)	18:30～20:00	地域再生のための次世代型「まちづくり」の社会実装はどのようにして実現されたか? 担当:神田 昌幸(筑波大学SWC政策開発研究センターアドバイザー/ 大和ハウス工業株式会社常務理事/大阪府・大阪市特別参与/全日本スキー連盟副会長)	
11/23(木・祝)	17:00～18:30	医療を中核とした「まちづくり」の社会実装はどのようにして実現されたか? 担当:鈴木 邦彦(医療法人博仁会理事長)	
11/25(土)	13:00～17:00		特定課題の解決に向けた 中間報告会 (1・2期生交流会)
12/2(土)	13:00～17:00	健康都市の自治体づくりにおける意思決定プロセスと課題解決 担当:久住 時男(筑波大学国際産学連携本部顧問)	
12/22(金) ～12/23(土)	(集合時間等の 詳細は別途案内)		フィールドワーク 特定課題への取組・実地研修 1泊2日 in 山梨県韮崎市 ・グループごとに自治体と共に実地研修 ・事業計画案進捗報告
		SWC実現に必要な視点 担当:久野 譜也(筑波大学体育系教授/SWC政策開発研究センター長)	
インスピレーションセミナー「最先端をゆくパイオニアからブレークスルーの起点を得る」			グループワーク
1/11(木)	18:30～20:00	多様な身体性を構成するためのテクノロジーとコミュニティ 担当:落合 陽一(筑波大学図書館情報メディア系准教授/デジタルネイチャー開発研究センター長)	特定課題解決のための事業計画立案に向けたグループワーク、ならびに最終報告会のための資料作成を行う。
1/27(土)	13:00～17:00	スポーツで考える日本の未来—多様な人材が必要な理由— 担当:山口 香(筑波大学体育系教授/SWC政策開発研究センター副センター長)	
2/10(土)	13:00～17:00 (17:30～祝賀会)	課題解決を導くプロジェクト計画の最終報告会、グループ評価、アワード授与、事後評価、修了祝賀会	

## お申し込み方法



<https://extension.sec.tsukuba.ac.jp>

※受講可否については後日事務局より連絡いたします。

お申込みお問合せ先 筑波大学 エクステンションプログラム事務局  
 〒305-8550 茨城県つくば市春日1-2 高細精医療イノベーション棟1F  
 TEL: **029-859-1648** (受付時間:月～金 9:30～17:00)

お申込み <https://extension.sec.tsukuba.ac.jp>

お問合せ [ep-sanren@un.tsukuba.ac.jp](mailto:ep-sanren@un.tsukuba.ac.jp)

**申込受付期間：9月3日(日)まで**

